

おひさしぶりの

同窓会誌 8
渾沌会
(九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学 同窓会)

Remember

2005.1.15



渾沌マークは九大芸術工学部のシンボル。そのデザインは幾度が微調整されたが、最終的には創設期の原型に戻った。



屋外ステージとしてのフライパンはまだ健在。最近では噴水ステージも活躍中。



噴水は語らいを集う憩いの場。時にはステージに返信する。



創立期の大橋キャンパス 1963～1964年

「九大の先生は、自分たちとのつきあい方に困惑してるのかなあ。どこことなく、きこちなさがあると思っ」
「気持ちは芸工大生なのに、芸工大・サークルでは九大生と呼ばれた。ちょっと傷ついた。ぼくたち一年生は、もう芸工大には入れないのに。」
そういえば、未熟な言葉尻をとらえ、ひとりよがりな自分の基準で、執拗なまでに後輩をやり

一期入学の各位は、入学時の心境を覚えておられますか？当時、校舎さえも殆ど未完成。当然、先輩はいないし、芸術工学のビジョンだけが先行し、思うように体感できない苛立ちの毎日でした。失礼にも諸先生方にあたり散らかし、自身も傷付いたほろ苦い青春だったと思います。
二〇〇四年度の入学生の中には、それに近い心境があるようです。一週間の四日を六本松キャンパスで過ごす彼らには、身近に頼れる学部の先輩はなく、芸工大と九大の変遷の最中であって、いわば、ハーフ＆ハーフ。彼らと話をしていて、こんな言葉を耳にしました。

初めての九大入学・準会員から 親愛なる諸先生先輩へ

こめてしまった情けない先輩の話も聞きました。また、思うところがあり、最近、同窓会を脱会した卒業生もおられます。長い人生に色々あるように、同窓会にも色々あるでしょう。が、色々あっても、自分たち先輩は、後輩に優しく、かつ厳しくあり続けたいと思います。

いつか、どこかで、リメンバー
同窓の絆をよりどころに



ありがとう、先輩。

学園祭レポート・募金へのお礼

二〇〇四年度 総会報告

私の仕事 O B版・現役版

「私の仕事」ライブ版 芸術工学座談会

開設間近「専門職大学院」

情報フライパン 同窓会事務局日より



応援 ありがとうございます。

第1回九州大学大橋キャンパス芸工祭 実行委員長
松尾 宗一郎 (画像設計学科3年)

11月の18日を前夜祭とし、21日までの延べ4日間にわたって開催した第1回九州大学大橋キャンパス芸工祭。会期中は晴天にも恵まれ、多数の来客を頂きました。19日のオープニングでは、太鼓の音が鳴り轟く中、火祭り隊による聖火点灯の儀式を挙行。例年は開会の前日に行ない、地域の方々には火祭り隊の存在くらいしか知られていなかったイベントでしたが、今年により洗練し、大々的に開会式で挙行しました。

初日の夜は、多次元棟で「DANCEPARTY2004」と称したライブ。観客を巻き込むパフォーマンスが圧巻でした。2日目はcueという空間構成に力を入れたイベントを行いました。和をテーマにした舞台演出は、リズムカルながら、どこか懐かしさを感じさせるものでした。3日目は「CBAproject2004」というファッションショー。手作りの衣装と舞台演出で、モノトーン×イロアソビという、対極のテーマの表現への挑戦です。他にも、噴水のステージでは、演劇やパロディ映像の上映など、芸工大らしい催しの数々で、外部からの来訪も含め、多数の観客に楽しんで頂きました。

アカデミックな企画としては、5号館での芸術工学部の研究内容を発表する「芸工紹介展」。外部からの来訪者には、これをお目当てにしている方も多く、装飾・案内に力を入れた今年の芸工紹介展は有意義なものとなりました。また、関連イベントとしての「世界のCMフェスティバル展」では、元芸工大教員のブービエ先生と現学生で構成するUnitachiの活動の軌跡を紹介しました。



そして最終日。火祭り隊によって守られていた聖火の種火が再び松明に移され、火祭りの本番が始まりました。豚の頭を齧った後、舞台はグラウンドへ移り、遂に火やぐらに松明が投入されました。瞬間に火柱が立ち上り、火祭り隊のダンスが始まりました。暗いこともあってか、その光景は今まで見た中で一番壮大で感動的でした。やがて待機していた人々も加わり、火やぐらを取り囲んで大団円が出来上がりました。皆の顔は、真剣だったり、笑顔だったり、泣き顔だったり、この学祭に精一杯取り組んだそれぞれの証が感動的でした。そして、約2時間半踊り続けたあと、闇夜に「創」の一文字を燃え上がらせ、この芸工祭をドラマチックにフィナーレしました。

今年は統合後、初の学園祭ということで、何もかも手探り。まさに創る学園祭でした。無事にフィナーレできたことを大変うれしく思います。1年生も毎日のように大橋キャンパスに通い、夜遅くまで頑張っていました。きっとこれからも芸工魂を受け継ぎ、有意義な学祭を創っていってくれと確信しています。

最後になりましたが、この学祭を様々な形で応援して下さいました。本当にありがとうございます。

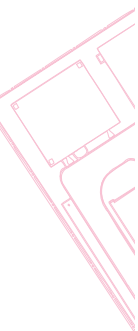
統合後、初めての学祭は、おかげさまで大盛況でした。



御礼・会計報告

先輩各位から、多大な資金援助を頂き、有り難うございました。収支の詳細は同窓会本部に報告申し上げます。

収入総額 4,805,326円
同窓会からの援助金(70万円)・企画主催者カンパ(113.1万円)・学内カンパ(132.5万円)
・後援会援助金(100万円)ほか
支出総額 4,805,326円
広報パンフ制作(566,873円)・前夜祭企画(473,515円)・cue企画(447,815円)ほか





積極的な参加を切望します

本部長：藤田啓晴（音響8期）

今回は、統合を終えてしまったことや、学園祭の時期がずれたこともあってか、ここ数年では、ちょっと寂しいものになりました。年に1度の集合チャンスでもあり、会長としては、各位の積極的な参加をお願いしたい気持ちです。

会合では、大きな協議事項も無く、2003年度事業及び決算報告、2004年度事業計画及び予算案の審議が中心となりました。また、会長任期満了に伴う改選では、私が2期目も兼任することになりました。あわせて役員改選時期でもありましたが、役員会組織の見直しを平行して行うこともあり、人選に付いては一任いただくこととなりました。後日の役員会で下記のように決定しましたので、ここに報告させていただきます。

- ・会長：藤田啓晴（音響8期：会務全般担当）
- ・副会長：西原礼二（画像9期：会報・名簿担当） 王鷲治雄（環境8期：総会・会計担当）
- ・理事：野口珠美（画像29期：会報担当） 安部雄一郎（環境9期：名簿担当） 川瀬康彰（音響23期：総会担当） 萬田昭彦（環境12期：会計担当）
- ・事務局長：尾本章（音響16期：事務局全般）
- ・事務局理事：河原一彦（音響16期：会報担当） 藤智亮（工業20期：名簿担当） 朝廣和夫（環境22期：総会担当） 石橋圭太（工業25期：会計担当）

2004年度の主要な事業計画について

同窓会誌リメンバーの発行

本年度を振り返ってみますと、リメンバー前号（第7号）で報告しましたように、役員会全員が35周年事業に掛かりつきりになったような1年でした。そのせいもあって、第6号まで毎年1回発行してきたリメンバーが休刊となり、今年度、こうして2号目（第8号）をお届けしている次第です。

会費管理の検討

2004年4月に初めての九大芸術工学部生が入学してきた訳ですが、同窓会に直接的な影響が出始めています。従来は入学手続の時点で会費を徴収しており、ほぼ100%に近い徴収率を維持できていました。ところが、芸術工学部単独の手続がなくなったことで、振込みに頼らざるを得なくなり、徴収率が半減しております。これを受けて、最重点課題として「会費管理の検討（会費管理ワーキンググループの設置）」を掲げ、単年度にこだわらず検討していくこととしています。

芸術工学座談会の開催

リメンバー前号（第7号）で、初めての座談会開催の様態を簡単に報告しております。また、本号誌面にも、座談会スピーカーの体験談や参加者の感想が寄せられておりますが、ひとまず順調な滑り出しと感じております。芸術工学の精神を後世に伝えていく意味で、無理の無い範囲で継続させていくことが重要で、今年度以降も定例行事として計画～実行していきます。

本部ホームページの充実

これまで簡単なHPを開設してきましたが、大幅なりニューアルを図ります。学生（準会員）を含めた九大芸術工学部・芸工大関係者を対象に、コンテスト形式で公募することにしました。既に、HP上に掲示した要領で公募を開始しております。作品締切にはまだ、時間がありますので、奮って応募ください。

役員会組織の見直し

理事および事務局ともに役割分担を決め、これまでの横断的な関係に加え、縦割りを強化します。前掲の通り、メンバーを選任し、組織を再編しました。

今後の構想について

芸術工学座談会

2004年度は、全学科を通して第2回の開催とする予定でしたが、実際には音響設計学科のみの開催となりました。所属の学科を越えて参加したいとの声もあり、6月を芸術工学月間と名づけて、5学科を5週間に分離して開催するのが理想的と考えてます。しかしながら、無理なく継続することや、同窓会の定期総会と関連付けて開催し、どちらにも参加しやすい環境作りを目指すことに配慮し、当面は、集中開催とすることを検討中です。

定期総会

2004年度の定期総会は、議事や周辺行事に目立ったトピックスも無く参加者の少ない開催となりました。参加者を増やすために、例えば学園祭の行われる11月に移行する等の協議も行いました。が、準会員（学生）を巻き込んだ総会にするには、現行のまま6月開催が望ましい、前述のように6月を芸術工学月間と位置付け、座談会とリンクした形で開催することが望ましいなどの意見が多数を占め、例年どおり6月開催で準備を進めております。将来的には6月を、座談会を核とし、定期総会を含め各種行事を組み合わせた芸術工学月間に定着させていきたいとの思いです。

学祭への支援金、 ありがとうございました

総額、約150万円の寄付が頂けました

統合に伴って生じた資金難に危機感をもった学祭実行委員会からの要請を受け、同窓会は事業として募金活動を行いました。

事業経緯

- ・2003年総会において募金活動を採択
- ・2004年5月より募金活動開始

その結果、約150万（下記参照ください）のご賛同をいただくことが出来ました。募金にに応じていただいた皆様に心よりお礼申し上げます。学祭実行委員会からは「できる限り、自立・自主運営を図りたく、今年は70万円を支援して欲しい」との申し出があり、残り約80万円は2005年度以降に繰越運用させて頂くことにしています。

おかげさまで、学祭は、例年同様、あるいは例年以上の成果を納められたのではないかと思います。統合という圧倒的な変化に直接巻き込まれた学生諸君の狼狽に端を発した募金活動でしたが、その手法や、姿勢に対し、いくつかの厳しいご批判も頂戴しております。これらのご指摘は今後の活動に生かしていく所存です。

一連の流れの中で、学生諸君と直接、話をする機会も持てました。初めに予算ありきではなく、限られた中で、如何に創造性豊かに演出していくのかを考えると彼らの方向性も確認できました。そして、この精神を後輩たちに伝えていこうと、彼らは考えています。こういう機会を与えられたことに対しても、募金活動のリーダーとして、お礼申し上げる次第です。

【収入】		【支出】	
郵便局振込み分	¥785,540	2004年度支援額	¥700,000
コンビニ振込み分	¥718,160	2005年度以降充当額	¥803,700
合計	¥1,503,700	合計	¥1,503,700

デザインとはコ・オーディネート

小原和博；環境設計学科1期
岩手県土整備部建築住宅課

卒業後、香山アトリエで3年、仙台の設計事務所1年働いた。それから、岩手県の公務員になった。

民間での経験は、個人的には役に立ったが、役所ではあまり関係なかった。しかし、岩手県立美術館を創るときは、役に立った。日本設計のスタッフは、私を設計者の一人として認めてくれた。それは、私が香山アトリエの出身だったからだ。「その地の文化の背後にある精神風土」を造形化できるかどうか、美術館建築の大事どころだ。造形それ自体の論理とは違うと思っていた。日本設計のスタッフは、良くやってくれた。

「素朴で、すがすがしく、ハイカラな精神」。宮沢賢治、石川啄木、松本俊介、萬籟五郎、舟越保武などに共通する精神



OB版



岩手県立美術館：デザイン／小原和博・山下博満・稲崎稔

現在、高校の建設などを担当している。3年あまりやっていた盛岡のすぐ南の紫波総合高校が完成した。総合学校に対応した空間を考えた。うまく出来た。

公務員の役目はコ・オーディネーターである。組織としてはそんな風に認められている訳ではないが、芸工大で学んだことは、そういうことなんだ。組織の論理とは関係なくても自分は自分だ。デザインはコ・オーディネート。「美しくコ・オーディネート」。

私は、仕事に関係なくロマネスク建築をあちこち見てきた。南仏ル・トロネの修道院が良かった。

岩手から芸工大へ旅立ち、東京・仙台で働いて、岩手に帰ってきた。あちこち旅行した。スカルパにも会った。若い時、色々やってみたが、展開の中でしか生まれなないことは、結構多い。

南仏のロマネスク建築巡回図



すべてを任されるやりがいと責任

香月啓佑(かつきけいすけ)；音響設計学科1年生
九州大学 芸術工学部

現役版

僕は今、CRJ-Fukuokaでの活動に魅了されています。この団体は、福岡の音楽好きな学生が集まって、メジャー、インディー、洋楽、邦楽を問わず、いい音楽を配信すべく設立された団体です。僕は、ラジオ番組の制作(企画・制作・ナビゲートのすべて)に関わっています。目下、番組の収録の際の卓操作のすべてを任されています。いい音楽も、僕の卓操作1つで別のものになってしまうということに、非常に責任を感じて、日々精進しています。番組はCROSSFMで毎週土曜日27時からの1時間という深夜放送です。先輩方のアドバイスをいただければ幸いです。

次に、自分と自分の仲間の状況を紹介します。

【大橋日】

僕らは、週に1日(金曜日)大橋で専門科目の講義を受けています。これを、大橋日と称しています(週の4日間は六本松で一般教養の講義)べったり大橋に通わないので、芸工大と疎遠になっているか?というと、むしろ逆です。僕らは、大橋日が待ち遠しくてたまらない、「芸工魂」



を受け継ぎたくてたまらないのです。僕らは「九州大学芸術工学部」の学生であり、今までにない変化の最前線に立っています。責任も感じますが、新しいものを作っていけるという楽しみも感じます。ぜひ僕らが新しく作り出す「芸工魂」に期待してください。大丈夫です。僕らは、すでに芸術工学に夢中なんですから。

【音響1年の姿】

僕らには、いくつかの任意団体(?)が存在します。

はやし企画：林君の人望のもとに音響1年が集うとき、僕らはその企画を「はやし企画」と呼びます。今までに「はやしパーティ(親睦会的なもの)はやしキャンプ(能古島キャンプ)」を行いました。今後はクリスマスと一緒に過ごす人がいない人(音響1年)で「クリスマスを過ごす会(はやし独り身クリバ)」を企画しています。

音響ButterDogs：サッカー好きの鈴尾君が立ち上げたサッカーチーム。構成員は全員音響1年です。金曜日の午前中、授業のない時間に大橋のグラウンドで練習をしています。先日、ケンタッキーフライドチキンチームとの初試合があり、見事<初試合での初勝利>をおさめることが出来ました。今後は戦術的練習をしていくとのことでした。

NFQ(Nabe Fu-Q kyokukai)：何かにつけて安倍君の部屋に集まり、鍋をつつく会です。季節に関係なく、僕らは鍋をつついてます。そして朝までセンチメンタルな話をえんえんするのです。

ad2004.org：現在音響1年でウェブサイトを構築しています。しかもドメインまでとってしまいました。まだコンテンツは少ないですが、具現化したい企画が、たくさん頭の中に渦巻いています。メンバー専用掲示板では、変なテンションで盛り上がっています。このサイトは<全国の音響志望の受験生からの質問窓口>も兼用しています(ここで公表してしまったので、更になんか更新していきます)現在は、来年の新入生のために「僕らが入学時に困ったこと」をまとめてアドバイスを載せる企画が進行中です。これに他学科の人にも協力を依頼しています。先輩方にも、ぜひブラウズいただいて、そして足跡を残していただけるとありがたいです。現在、音響1年では、blogブームが起こっています。キーワードで検索すると誰かのblogに出会うことがあるかもしれません。*サイトアドレス <http://www.ad2004.org/>

『私の仕事』ライブ版 それが「芸術工学座談会」です

河原一彦(音響16期)

今年度の 芸術工学座談会

芸術工学座談会は、2003年の大学統合を期に同窓会の新規事業として企画されました。そのコンセプトは、同窓会の活動を「卒業生同士のネットワークづくり」から卒業生のネットワークを活かして「在学生へ経験をフィードバックすることへ、展開していくことにあります。

講演会ではなく、座談会と銘打っているのは、<講演者+論客>という形をとって、建前ばかりでなく、本音の議論を掘り下げていきたいため。それこそ卒業生も在学生も一緒に車座になって、和気あいあい、かつ真剣に、意見交換できる場にしたいがためです。議論熱中で怒鳴り合うことがあっても、その本気の後ろ姿を後輩に見てほしいからです。

さて、昨年度、10年は続けてみようという気分で始まったこの企画。今年度は同窓会本部のスタッフが、「芸術工学のお誕生日(芸術工学月間)」と勝手に定めた6月の実施を目標に、計画調整を進めてきました。が、直前に都合がつかなくなった企画もあり、6月19日(土)に音響設計学科関連の座談会を実施にこぎつけたのが、やっとという実状です。告知のための期間が十分にとれなかったにも関わらず、音響1年生が10名程まとまって参加してくれ、有意義な座談会となりました。

【音響設計学科関連座談会 2004年6月19日(土)開催】

テーマ：「映像・音楽圧縮の現場で活かす"技と"」

出演：末次圭介さん(音響18期) 米国DVCC/松下電器産業
岡本学さん(音響18期) NTT

来年度以降の展望

まず、「<芸術工学座談会>では名前がカタすぎるんじゃないか？」という指摘があり、役員会で協議したところ、次年度は、「私の仕事 Live版」と、柔らかめに改名して準備を進めることにしました。スケジュールも、もう暫くは九州芸術工科大学の創立記念日のあった「6月」を意識してやってみたいと思っています。

すでに、人選の始まっている学科もあるようですが、企画の持込みも歓迎します。「オレの話聞け!」という熱い想いの先輩方、華やかな仕事も、地道な仕事も、そこに懸ける想いを話して下さる先輩方、どうぞ、同窓会事務局まで、電子メールにてご連絡ください。

アクセスの詳細については次頁参照下さい

「芸術工学座談会」に参加して

出演者としてのひとこと

NTTサイバースペース研究所, 岡本学(音響18期)

さる2004年6月19日土曜日、同窓会のありがたきご要望を頂き、在校生の皆様の前で喋らせて頂きました。基本的に人前で喋るのが好きな人間ですし、芸工大(または九大芸術工学部)の在学生の前という事で、更に楽しく喋らせていただきました。講演準備中も、喋っている最中も「聴いている人に、理解してもらえているか?、何かを与えることができているか?、楽しく聴いてもらえるか?」ずっと気がかりでした。

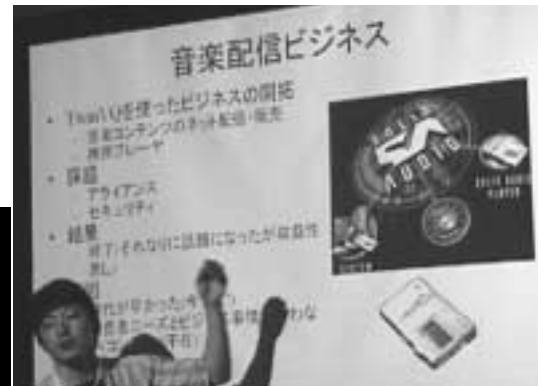
内容的には、

- ・卒業し社会に出て以来やってきたこと
- ・頂いたお題である「音声符号化」の話
- ・芸術工学を勉強したことが、どの様に実社会で役立つか

という話をさせて頂きました。

その中で終始一番伝えたかったことは、在学生の方々に現在大学で過ごしている時間、そこで培われている「何か」は、将来、社会に出て仕事をしたり人と接したりする上で大きな財産になるということです。芸術工学部を出て通常の会社に入りますと、私たちが持っているバックグラウンドは、結構変わったものになります。しかし、社会では、人とは違った視点をもった人間というのはそれなりに重宝がられます。おそらく、大学で勉強した専門と関係していない分野に入られても、芸術工学を学んだ人が持つ「どんなものでも、最終的には人が見たり聴いたりして、感じて判断するものだ」という感覚は、役に立つと思います。そういう感覚を大学での授業、もしくは学生同士のやり取りの中で、身につけていってくれたらなと思っております。

講演した自分から書くのもなんですが、この様な卒業生と在学生とのコミュニケーションの場合は、結構、有用かと思えます。私自身、入学当初に進学と就職を考えた時、修士で就職活動をした時、その都度、学年の先輩や就職先の先輩、かつての同級生等の話を聞き集めました。そして、それまで自分が想像していた仕事や職場と、現実はずいぶん違うものだと感じ、考えを何度もあらためた記憶があります。今回の話で、<芸術工学を学んで仕事につく>ことに関し



て、少しでも何か新たな発見をしていただけたら幸いです。

座談会では、同級生の末次君と久しぶりに会い、現在の仕事の話などを聴けるなど、わたしの方も非常に有意義でした。通常の授業がない土曜日ということで、話をわざわざ聴きに來る方がいるのか、多少不安もありましたが、本部役員会のご尽力、岩宮先生のご協力、また学生さんのお手伝い等、多くの方に盛り上げて貰え、大変嬉しく思いました。またこのような機会があれば、なくてもご要望があれば何度でも話しますので、よろしくお願い致します。ありがとうございました。

最後に、今回このような機会を与えてくださいました河原先生へお礼申し上げます。ありがとうございました。

リスナーとしてのひとこと

九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科

芸術工学専攻 音響系博士前期課程二年緒方 洋介

「映像・音楽圧縮の現場で活かす"技と"」では、映像及び音楽の分野において圧縮や符号化のスペシャリストのお二人の熱論を拝聴しました。第一線で活躍する先輩の生の声を聴こうと、音響設計学科の学生のみならず、画像設計、芸術情報設計などの学生ら約30人が集まりました。

まずは、末次先輩。ハリウッドの映画作品をDVD向けに圧縮するCompressionist(画像圧縮職人)として活躍中。DVDの規格化に際しては、メーカーとクリエイターの間に立ち、相互理解をサポートされ、そのこだわりの圧縮技で映画会社から直接指名されたとのこと。DVCCの会社の位置付けなどの紹介につづき、DVDの規格や記録技術について簡単な解説も受けました。また次世代ディスクの規格制定に関連して、ハリウッドの映画制作者とのやりとりなど、ホットな話題もありました。さらには映画をDVDに収める「オーサリング」



という仕事の話もありました。シーンに合わせてビットレートを調節する仕事なのだそうです。

次に、岡本先輩が「自分はあんまり圧縮は専門ではないですけど」と前置。音楽につかわれる効果技術や符号化技術について研究され、ビジネスの現場にも詳しいとのこと。大学入学以降に関わってきたことの歴史を紹介しながら、関連する技術解説をされました。NTT入社後に関わった立体音響技術や、それを応用した遠隔会議システム構築などの話の中で、特に、立体音響効果の技術は、安室奈美恵のCDに採用されたそうで、興味深いものがありました。他にも、圧縮技術に関連して、音楽配信ビジネスの現状・問題点なども論議されました。最後に、先輩が考える「芸工大生のセンス」について披露いただき、多いに勇気づけられた気がしました。

質疑応答では、それぞれの企業での「研究と開発の違い」や、研究開発戦略について、はたまたプロジェクトのマネジメントはどうあるべきかということも話題が発展し、大人の世界を垣間見た気がします。その後で、末次先輩がオサリングに関わった映画DVD「RONIN」を見ながら、シーンにより帯域を割り当てる際の着目点についての話がありました。「顔がきれいにみえることがまず大切だが、背景の壁のノイズの質感の表現が、ハリウッドでは重視される」とのこと。いまから社会に出て行こうとする自分たちにとって、業界のプロフェッショナルに直接ふれることが出来、未来の自分像を構築するためのよい機会になりました。このような先輩との出会いの場を、今後も提供し続けていただきたいと思います。

熱い想いを語り継ぐ----- 同窓会 自主企画 『芸術工学 座談会』

私の仕事「語り部」募集中

芸術工学を志す仲間として、我らOB自身も、まだまだ発展途上人。ではありますが、ここまでのとりあえずの成果、ここに至る苦悩と貴重な体験こそは、現役達の明日の糧です。例えば、OBが親なら、現役は子ども。これから毎年開催予定の『芸術工学座談会』で、どうぞ、熱い想いを語って欲しいのです。ぜひ、あなたに。

私的デザイン論 成功と失敗 喜びと苦悩 叱咤激励 なんでもOK。詳細は同窓会事務局までお問い合わせください。同窓会ホームページ（下記アドレス）にてお問い合わせの際は、氏名・出身学科・入学期をお書き添え下さい。

リアルタイムのリメンバー----- 渾沌会ホームページ

HPリニューアルデザイン募集中

渾沌会のホームページを充実させるため、デザインを募集中です。
contest@www.alum.design.kyushu-u.ac.jp 宛、メールにて参加申し込みください。メールの題名は「コンテスト参加申込」とし、本文には「氏名（または参加チーム名）」「連絡先メールアドレス」を明記ください。折り返し、HP作成作業エリア（同窓会webサーバー上）を貸与します。

賞金 最優秀賞：5万円 優秀賞（3名以内）：1万円 締切 2005年3月31日（木） 提出物

(1) トップページデザイン 現在のwebページのコンテンツは全てレイアウトし、HP作成作業エリアにUPください。新規コンテンツの提案も歓迎します。

(2) サイトマップ IllustratorやPowerPointファイルで作成し、メールに添付下さい。手書き郵送も可。できればデザイン趣旨書（コンセプトや技術的内容のアピールなど）も提示ください。

審査基準および選考方法 渾沌会本部役員が、デザイン・メンテナンス性・操作性(アクセスビリティ)・創造性(表現力)・独自性を重視して選考 審査結果発表 2005年4月中旬に本人に通知するとともに、渾沌会webページにて発表

最優秀賞受賞者への希望事項（有償にて依頼）
・提案された全ページの制作（2005年5月31日まで）
・HPのメンテナンス（受賞後の1年間）

<http://www.alum.design.kyushu-u.ac.jp>

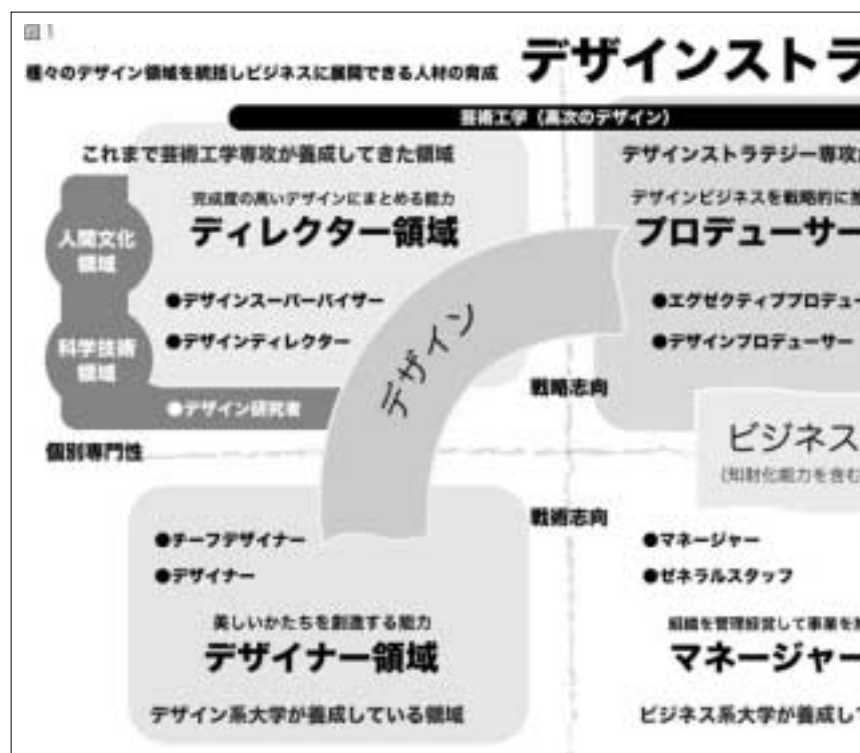
開設間近「専門職大学院」

九州大学大学院芸術工学府・専門職大学院（通称・デザインスクール）概要

わが国のデザイン分野においては、平成16年4月の経済産業省の次世代デザイン人材育成に関するビジョンにもあるように、デザインコンセプトを決める構想力、実際に企画、生産、知財化、流通、販売までの過程を調整する能力を持つ新しい型の人材の必要性が示されています。すなわち個別のデザイン分野を統合しデザインビジネスとしてプロジェクトを推進できるデザインプロデューサー的人材が要請されているといえます。これらの人材育成は、従来、企業等の内部でOJT(On the Job Training)を通じて長年をかけて育成が行われてきました。しかし、近年の社会構造・産業構造の変化に伴い、企業における実務を通じた教育に時間を割くことが難しくなり、また、産業として国際競争の激しい分野や技術的に成熟している分野においては、デザインを戦略的に活用したブランド構築などが求められており、この新しい型のデザイン人材の早期育成が望まれています。

このような社会的要請を受けて、九州大学では、九州芸術工科大学との統合により新しく生まれた芸術工学部、大学院芸術工学府を基幹に、専門職大学院（デザインスクール）の平成18年度春の開設を目指して準備を進めています。

専門職大学院（デザインスクール）は、統合デザイン能力とデザインビジネス能力を合わせ持ちデザインを戦略的に推進できるデザインプロデューサー的人材の養成を目的としています。つまり、各種デザイン分野を統合して先導的プロジェクトを立案し、その事業計画の策定・実施ができる人材であるとともに、その実施に当たって事業の経済性から社会的影響までを配慮しつつ、成果の知的財産化、流通などのデザインビジネス過程を戦略的に推進できる能力を有する実務専門家を育成することを目指しています。専門職大学院（デザインスクール）は、九州大学のみならずデザイン系教育機関において社会が求めるデザイン専門職教育の役割を担うものと期待されております。 図1、2参照



現時点で計画している専攻名、定員、授業科目等

- ・ 専攻名：大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻（案・仮称）
- ・ 修士課程 2年間
- ・ 学位：プロフェッショナルデザイン修士 [専門職] (案・仮称)
- ・ 定員：20名（予定）
- ・ 修了要件：規定の単位を取得し、ディグリープロジェクト成果の評価による。（通常の修士論文は課さない）
- ・ 指導教員：デザインプロデュース及びデザインビジネス、デザイン知的財産権等の新たな実務教員と芸術工学府、工学府、経済学府及び法学府の実務経験を有する教員が担当予定。また、日本産業デザイン協議会との連携による実務者などの非常勤講師も予定。
- ・ 授業科目：プロジェクト科目を必修に、デザインビジネス科目及びプロジェクト推進科目により構成。
 - ・ プロジェクト科目群（案）：ユニバーサルデザイン社会創成型プロジェクト、ブランド創成型プロジェクト、メディア芸術表現型プロジェクト、コンテンツ産業創成プロジェクト、ディグリープロジェクト
 - ・ デザインビジネス科目（案・一部）：ブランドビジネス戦略、コンテンツビジネス戦略、デザインベンチャー特論、デザインビジネス特論、デザインコンサルタント特論、デザイン産業事情特論、デザイン知的財産権、ビジネス財務特論、等
 - ・ プロジェクト推進科目群（案・一部）：生活空間デザイン戦略、ものづくりデザイン戦略、まちづくりデザイン戦略、人間特性活用戦略、コンテンツデザイン戦略、インタラクティブデザイン戦略、サウンドデザイン戦略、戦略的先端芸術表現、イベントデザイン戦略、等
 - ・ また、この他、芸術工学部、芸術工学府芸術工学専攻、工学府、経済学府等の九州大学での開設科目の履修が可能となるよう検討中。

また2004年度は、専門職大学院（デザインスクール）に向けて1回目のシンポジウム「高度デザイン人材育成シンポジウム、2004.11.30」を東京で開催致しました。基調講演は、国際的デザイナーであり、本年度のグッドデザイン賞審査委員長の喜多俊之氏と松下電器産業パナソニックデザイン社・社長の植松豊行氏にお願いし、パネルディスカッションには、日本インダストリアルデザイナー協会理事長・大倉富美雄氏、日本デザイン学会長・杉山和雄氏、NHK解説委員・中谷日出氏、そして九州芸工大の卒業生でもある富士通株式会社総合デザインセンター長・加藤公敏氏と日産自動車デザイン本部プロジェクトデザインディレクターの長野宏司氏をお招きし、有意義で内容のあるものとなりました。

そして、2005年2月2日には、第2回のシンポジウムを福岡で開催する予定です。さらに翌日の2月3日から5日までは、デザインビジネスセミナーも予定しております。これらのシンポジウムやセミナーは、次世代デザイン人材として求められている高度デザイン専門職のために養成すべき能力、人材像、教育体制、そして社会に果たす役割などについて、東京でのシンポジウムとは異なる各界においてデザインプロデューサーとして活躍されている学識経験者の方々と交えて議論を深める場として開催するものです。2月のシンポジウムとセミナーの詳細については、現在、鋭意進めているところですので、みなさまの参加をお待ちしております。

第2回 高度デザイン人材育成シンポジウム（無料）
「求められる高度デザイン人材とは」

- ・ 主催：九州大学、共催：財団法人日本産業デザイン振興会
- ・ 日時：平成17年2月2日（水曜日）
- ・ 場所：九州大学コラボ・ステーション1：福岡市東区馬出3-1-1
- ・ 募集人数：先着200名程度（予定）
- ・ 13時から17時半、基調講演、記念講演、パネルディスカッション（予定）

第1回 デザインビジネスセミナー（無料）

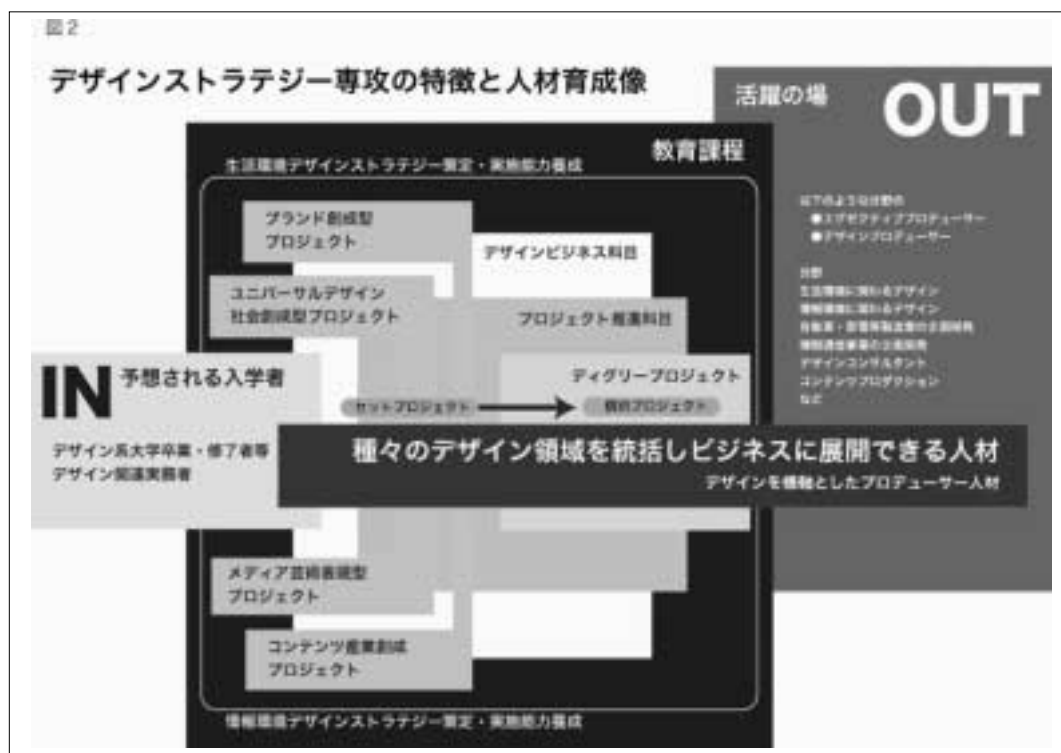
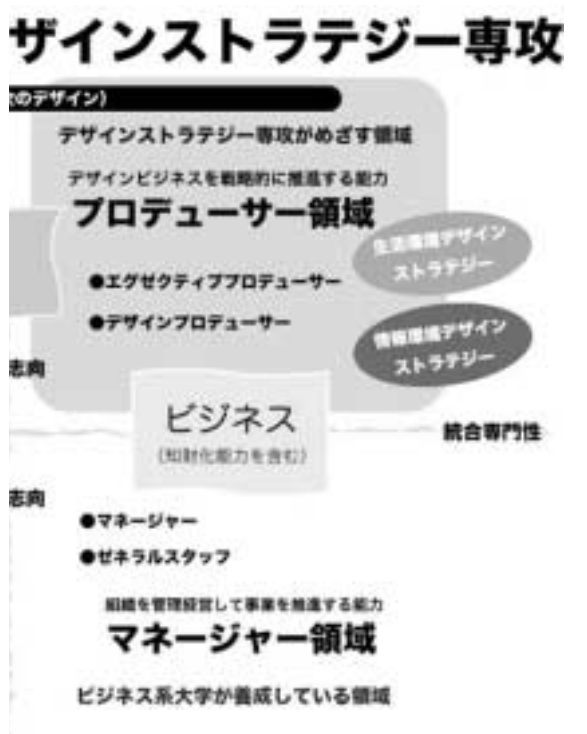
- ・ 主催：九州大学、共催：財団法人日本産業デザイン振興会
- ・ 日時：平成17年2月3日（木曜日）～5日（土曜日）
- ・ 場所：九州大学大橋キャンパス：福岡市南区塩原4-9-1
- ・ 募集人数：先着50名程度（予定）
- ・ 毎日8時40分から18時10分の5限分3日間の集中講義・演習方式を予定。

問い合わせ先：九州大学芸術工学部総務課
電話092-553-4429 E-mail : strategy@design.kyushu-u.ac.jp

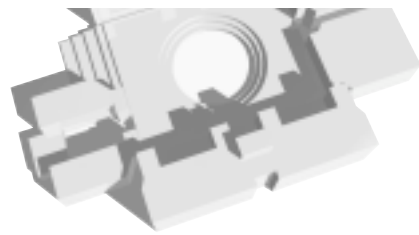


九州大学大学院芸術工学研究院・教授
森田昌嗣

上記内容は2004.12.9現在のものです



情報フライパン



同窓会事務局だより

本部 きっと、また、いつか怪しい輝きが

本部事務局長：尾本章（音響16期）



今回、本部役員改選に伴って事務局長を仰せつかりました、音響16期の尾本と申します。どうぞ、よろしくをお願いします。

先日、関東支部の総会に参加させていただき、お世話になった先生や、たくさん先輩方にお会いしました。卒業生の、特に先輩の皆様は、やっぱりホントに怪しい人ばかりで、一緒に芋焼酎などを飲んでいて、何だかうれしくて涙が出そうになりました。芸工大では、この1～2年の間に、本当に色々なことが起きました。「なぜ芸工大の名前が無くなるようにしているのだろう、大学とは一体誰のためにあるのだろう」などと改めて考えさせられ、悩むことばかり

でした。でも、変わらずに頼もしいのは学生さんと卒業生の方々の熱い気持ちです。

正門にあった黒御影石に刻まれた『九州芸術工科大学』の碑銘は、わずかに後ろに移動し、敷地に足を踏み入れるみんなを静かに見つめています。同窓会では、その石のうしろに植樹をしようと考えています。四季折々にきれいな花をつける何本かの木が良いでしょう。その木々が大きく繁るころ、きっと、また、芸工大は怪しく輝いているのです。



関東支部

世代交代に思うこと

支部長：菅尾貞登（工業2期）



関東支部は2004年11月27日に定期総会を開催しました。出席者数は80名程度と言う事で、本当はもう少し多い出席者数が欲しいところですが、2003年秋に九州大学と統合して、初めての総会となりました。

当日は佐藤研究院長をはじめとする来賓の方々の出席を頂き、関東在住の同窓会員が一堂に会し、有意義で楽しい時間を持たせたと思います。佐藤先生からは大学統合前後のいきさつ、統合後の話、これからのことなど、OB諸氏の関心の高い事柄についてお話がありました。また、関東支部の役員も今年で任期満了という事で、次期役員が承認され、来年からは新しい体制で運営されます。振り返ればこの4年間色々ありました。時代がそうさせるのだとも思いますが、次の役員諸氏にも課題を残す事となります。同時に、



会員諸氏には同窓会に対する思いを今一度ご確認頂き、今後の同窓会を盛り立てていただきたいと思います。この4年間、自分が支部長を務めて参りましたが、幸いにも、各学科理事の皆さんに前向きに、きちんとサポートしていただけた「私なりの役目は果たせたかな」と思っています。同窓会はくあって当たり前、ちょっと空気みたいな存在として受け止めている人が多いのかと思ったりもしますが、あとしばらくすると初期の芸工大生がいよいよタイヤし始める年代になります。また、若い世代にとっては、大変困難な時代に世に出て行かれることになります。単に懐かしむだけでなく、ちょっと悩む時、ちょっと新しい取り組みや行動を考えている時など、様々な形で同窓会を活用していただければ幸いです。



最後になりますが、2004年7月に関東支部のホームページを開設しました。これを今後の皆さんの役に立つツールとして充実させたいと考えています。ご協力のほど、よろしくお願い致します。

関東支部HPアドレス <http://www.konton.jp/kanto/>

関西支部

卒業生ネットワーク維持のために

支部長：今村滋（環境12期）



卒業生の皆様、お元気ですか。

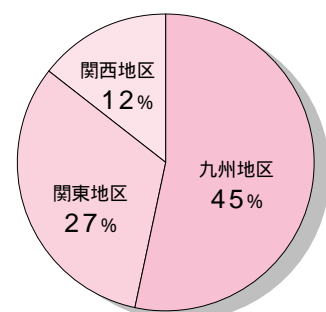
さて、今回は関西というエリア特性から、同窓会運営の一端を紹介したいと思います。まず、卒業生のエリア別居住地割合ですが、九州（45%）、関東（27%）に次いで、関西は3番目で約12%の方がお住まいです。その実態は、もともと関西出身で卒業後に戻られたか、出身は違っても関西に本社のある企業に就職されたなどの理由と思われる（調査したわけではないのですが.....）

ところが、最近、関西は社会の大きな潮流に巻き込まれようとしています。というのも、経済界の流れで、企業合併や、拠点が関西から東京へ移転する、いわゆる「東京シフト」の動きが目立ってきたからです。このことは、仮に、卒業後の一旦の就職先が関西でも、その後の転勤などで域外に出られる方も多くなりますから、長期的

には定着率の減少を意味します。つまり、関西支部に限って言うと、決して拡大志向ではなく、組織も活動も身の丈にあったものに変えていくことを迫られているように思われるのです。

私が思うに、同窓会への期待があるとすれば、その究極には卒業生ネットワークの維持・共有があるのでしょうか。役員各位も仕事を抱えた側で活動していますので、どれほどのことができるかわかりませんが、本部、関東支部に先駆けて、いろいろと考え、実践してみたいと思います。

そこで最後に、現関西エリア在住の卒業生の皆様にお願ひがあります。これからも活動の案内が届くと思いますが、定期的に関西で開催している総会や花見への参加も含め、ぜひとも継続的に積極的な御支援をお願いする次第です。



卒業生の居住区域分布

会報誌編集制作スタッフ募集中!

会員各位からの感謝に加え、手当のおマケがつくアルバイトです。卒業学科にこだわりません。問い合わせ先：同窓会事務局HP FAX(092)553-4520（河原）

九州大学芸術工学部・九州芸術工科大学同窓会会報 8
同窓会事務局発行 2005.1.15
編集長 佐伯正繁（画像2期）
取材 & 写真協力 OB先生他オールスタッフ